

特集：図書館員の自己啓発

診療録管理士

田中泉美

1. はじめに

医療従事者でなければ、診療録管理あるいは病歴管理という業務は馴染みのない言葉かもしれません。私自身も病院図書室に勤務して初めて耳にしました。病院図書室の司書は病歴係を兼務していることが多く、どちらが主とも言いがたいほど、双方ともに病院にとって重要な業務であること、また、互いに共通項を持ち合わせていることなどを聞き、この業務に関心を持つようになりました。

図書室に勤務して2年が経ち、日常業務にも慣れてきた反面、医療についてもっと幅広く知識を習得したいという希望もあったので、1992年1月から2年間、日本病院会の通信教育を受講し、今春、診療録管理士の資格を得ることができました。

実務経験のないペーパー管理士ではありますが、2年間の学習を振り返り、受講内容のポイントなどを以下にまとめてみました。

2. 診療録管理の必要性

診療録は病院の宝とも財産とも言われ、米国病院管理学の創始者の一人である Malcolm T. MacEachern(1881~1956)は、診療録の6つの価値を次のようにあげています。

(1) 医療上の価値

再来患者にとって、以前の正確な記録は診断の決定や治療方針に役立つ。

(2) 医学研究上の価値

臨床医学研究の資料となり、医学の発達に貢献する。

(3) 医学教育上の価値

病院は、優れた専門医養成手段として卒業教育体制の充実を図るが、診療録はその重要な教材となる。

(4) 公衆衛生上の価値

地域における疾病罹患状況の把握は、公衆衛生上多大な効果をもたらし、地域医療計画や包括医療などに有用性を持つ。

(5) 病院管理上の価値

病院管理者は、診療録の内容分析を通して自院の医療機能水準を把握できる。

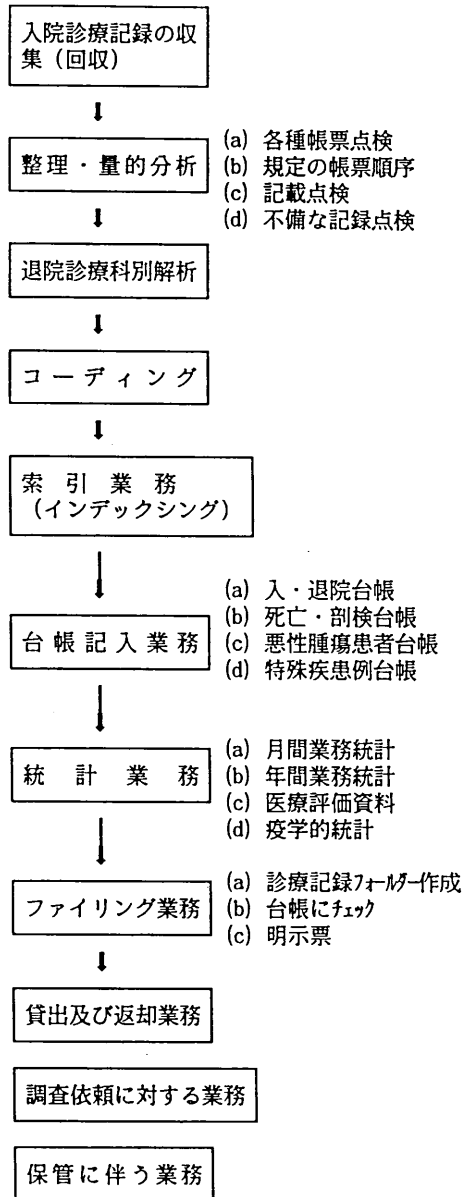
(6) 法律上の価値

正確に記録された診療録は、近年頻繁となりつつある医事紛争において、病院や医師のために法的防衛上の証拠となる。

以上のように貴重な資料である診療録を、宝の持ち腐れにしておくのではなく、一定の方式で整理し、必要な時に直ちに提供できるよう管理することが診療録管理士の職務と言えます。入院診療録を例にとると、(図1)のようにまとめられます。管理士の専門的能力、意欲が病歴室の機能、活動性、病院管理への貢献度など業務の質を大きく左右します。

しかし、わが国ではいまだ国家資格として認定されておらず、身分的な保証もなく、病院一般事務職員と同様に、職場変更のローテーションに組み込まれることも少なくあり

ません。一日でも早く、コ・メディカルスタッフの一員として社会的に認められることが望まれます。



(図1) 病歴室の業務フローチャート

3. 診療録管理士の教育体制

米国における診療録管理者の資格は、登録病歴管理者 R. R. A. (Registered Medical Record Administrator) と認定病歴専門士 A. R. T. (Accredited Medical Record Technician) の 2 種類があります。R. R. A. の有資格者が病院の需要に満たないため、専門的判断を下す資格はないが技師として病歴室の実務を援助する A. R. T. が養成されています。

米国では、病歴管理の実務担当者を大学教育で養成しています。R. R. A. は 4 年制大学の卒業者が資格認定試験を受けて取得し、A. R. T. は高校卒業後 2 年間の学校教育、または 3 年間の通信教育が必要とされています。現在、R. R. A. の教育課程を持つ大学が 55 校あり、そのカリキュラムは管理者教育に重点が置かれているものの、実務教育もかなり盛り込まれています (表1)。また、A. R. T. 資格認定学校は 82 校あり、実務中心の教育内容となっています (表2)。

このように、米国では充実した教育制度が整っており、診療録管理業務は 1932 年以来専門職として育てられ、発展を遂げてきました。

(表1) R. R. A. 資格認定学校のカリキュラム

- 医学用語学 I ~ II
- 医療情報概説 I ~ IV
- 特殊医療情報概説
- 医療記録の法律
- 病歴室運営
- 病歴管理実務 I ~ II
- 病歴管理 I ~ II
- 医事法制
- 管理学 I ~ III
- 医療評価
- 研究方法論
- 医療の質の保障

(表2) A. R. T. 資格認定学校のカリキュラム

<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学用語学 I ~ II ・ 医療情報概説 I ~ IV ・ 特殊医療情報概説 ・ 医療記録の法律 ・ 病歴室運営 ・ 病歴管理実務 I ~ II ・ 医療統計概説 ・ 情報処理技術概説 ・ 傷病名概説 I ~ II ・ 生理学概説 ・ 病理学概説 ・ 治療学概説 ・ 病院実務実習 I ~ IV ・ トランスクリプション (医師によって口述録音されたテープを聞き取り、タイプする技術)
--

一方、残念ながら日本ではまだ学校教育体制に組み込まれていません。現在、最も体制が整ったものとして、社団法人日本病院会の通信教育制度があります。米国の A. R. T. の通信教育制度を基本にしていますが、そのカリキュラムはわが国の病歴室事情に合わせ、修正されています(表3)。一部の医療秘書専門学校では、卒業と同時に日本病院会の通信教育2年次へ編入ができます。その他、厚生省病院管理研究所にて、毎年秋に3週間の病歴管理の講習会が行われています。1週5日間で、3つのコース(診療録管理コース、疾病分類コーディングコース、医療評価コース)に分かれています。

4. 通信教育の受講案内

昭和47年、社団法人日本病院協会(現日本病院会)が2年制の通信教育による診療録管理士の養成課程を開講しました。現在受講中

の者も含め、受講生は4,692名となっています。そして、最終の全国統一試験に合格した1996名が、日本病院会認定診療録管理士として登録されています。

この通信教育の主な実施要綱を次に紹介します。

(1) 受講資格：短大卒以上

- ① 現在病歴室で勤務している者(当分の間、現職者は高校卒でもよい)。
 - ② 病院の病歴室以外の部門に勤務している者(将来その病院の病歴室に配置がえを予定されている者の学歴は①に準ずる)。
 - ③ 病院勤務者でない者(年齢30歳未満)
- ②の一部および③は、日本病院会指定の各地の病院において2週間の病歴実習を行い、履修証明を提出しなければならない。

(2) 実施要領

- ① 修業年限：2年
- ② 受講料：1年 70,000円

(3) 単位修得方法

履修科目(表3)の修得方法として次の3項目が必要です。

① レポートの提出

期日までに会へ送付すると、該当科目講師によって添削され、本人へ返送される。

② スクーリングへの出席

1年に2回(2月・8月)、3日間のコースが東京、大阪、福岡地区で開催される。出席日数の1/3に限り、各地の研究会、セミナーへの参加をもって出席と認められる。

③ 期末試験の合格

上記の3地区にて、各学年末に進級試験および認定試験が実施される。

(4) 申込および問合せ先

日本病院会診療録管理通信教育課

〒102 東京都千代田区麹町2-14
Tel. (03)3265-0079

私は第40期生で、全国で1980人目の診療録管理士として認定を受けました。77名からなる第40回診療録管理課程認定者名簿によると、男女比率は1:4で圧倒的に女性が多く、診療録管理士が秘書あるいは司書的なイメージを持つ職業であることがわかります。ほとんどの認定者が現在病院に勤務し、その過半数が医事課あるいは病歴室に所属しています。

いま振り返ると、有意義な2年間の受講経験であったと言えますが、100枚以上のレポートを作成し、15科目の試験に合格することは決して楽なことではなく、焦りや不安を克服するのに必死の思いでした。仕事を持つ者にとって最もむずかしいことは、限られた時間のやりくりです。しかしながら、幸いなことに病院図書室に勤務していたおかげで、手近に参考資料を閲覧でき、また医学に関する疑問点は医師に相談できました。学生時代のようにただ漠然と与えられた教科を学習するのではなく、目的意識が明確であったので、

(表3)日本病院会通信教育のカリキュラム

<p><基礎科目></p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療学概論・ 解剖学・ 生理学・ 内科学・ 外科学、外傷学・ 産科学(周産期含む) <p><専門科目></p> <ul style="list-style-type: none">・ 診療録管理学通論・ 分類法総論、実習・ 診療録管理室運用・ 医学用語学・ 医療情報学

ここまでたどりつけたと思います。そして今、診療録管理士としてスタート地点に立てたことを何よりも嬉しく感じています。

5. まとめ

当院には、病歴室として独立した部門が存在しません。診療録は医事課によって保管されていますが、貸出システムも確立しておらず、永久保存でありながら生きた資料として活用されていないのが現状です。将来、もしカルテ庫が病歴室として整備され稼働するようになれば、管理士の一人として役立ちたいと思っています。

今新たにある異なった側面から医療に取り組んでみよう、最近また医療関係の専門学校に通っています。偉いと褒めてくれる人もいれば、道楽だと笑う人もいます。しかし、意欲のある限り学び続けたい。微力ながら、より良い医療環境づくりに貢献できればと願っています。

《参 考 文 献》

- 1) 岩崎 榮：診療情報の管理、第1版、東京、医学書院、1992
- 2) 高橋政祺：病歴室運営、第4版、東京、日本病院共済会、1993
- 3) 酒井隆子：診療記録管理学通論、第2版、東京、日本病院共済会、1991
- 4) 日野原重明：診療における診療記録の意義、日本医師会雑誌、107(7)：1121-1124、1992
- 5) 岩崎 榮：診療記録の保存、日本医師会雑誌、107(7)：1165-1168、1992
- 6) 木村 明：診療録管理部門の人と組織、病院、52(1)：80-81、1993